

企業不祥事の裏に見えるお金と地位と嘘と眞

R.F.C

リスク・カウンセラー & ファイナンシャル・カウンセラー

Information & Report

2008.1.17 Vol.2008-01

●バブル経済の崩壊とサブプライム問題に学ぶ

日本のバブル経済が崩壊してから早くも十数年になり、景気指数はそれなりに回復しているが発表されていますが中小企業では経営者も従業員も一向に収入アップにならぬような材料がなく、経営も生活も楽にならないというのが実感のようです。バブル経済の崩壊と平行してIT産業の新規参入が本格化し、ITバブルから誕生したITセブという人々の生活が話題になっていますが、バブルの見えないところには今でもたくさん消えていく企業があることも見逃してはならないのではないのでしょうか。

二〇〇八年・平成戌子年の成人の日。晴れて新成人となった人は一三五万人。市町村の公民館で行われる式典に参加する青年達の晴れ着姿が街のあちこちで見受けられる日です。この「成人式」は、古来の元服式に当たる儀式と云われていますが、男子は髪を結い冠か烏帽子を付け服装を改めて、切腹の作法を修得して成人となったことを認められたようです。自分の行動に責任を持つと云う厳粛な心根を身につける日でもあったよう。



するにしても、手取り早く利を得る方法として不動産が格好の投資材料となっていました。社会生活を充実させるための弱者を救うような福祉関連に対して余ったお金を拠出してくれる人や企業がなかったら、人間社会も捨てたもんじゃないと思ってしまう。世の中そうはならないよう。

米国におけるサブプライム問題は、弱者である低所得者に住宅取得の夢を叶えさせると騙すような手段で踊らされた人々は、その住宅ローンを証券化して投資の対象にすり替えられてしまったことにより、本来の価値以上に資産価値が高騰することを期待した投資家の手によって翻弄され、挙げ句の果ては個人破産の憂き目を見る結果となってしまうのです。

そのうち、太陽や雨、風、水を自由にコントロールして投資の対象にする輩も出てくるかも知れません。生活に必要な「衣・食・住」までも投資の対象とするのは、人類の基本的な人権までもを侵害するやもしれない事態になるように思えてなりません。

●嘘をついてまで守る地位とはなんだろう？

車両の欠陥により死亡事故を起こした大手自動車メーカーの社長が有罪判決になったことも、賞味期限の表示を会社ぐるみで

偽って倒産危機に陥り、会社更生法の申請をした老舗料理店、お菓子の製造メーカー、老人介護施設の福祉関連企業など、昨年の一年間で発覚したもののだけでも十数件の偽装行為が虚偽発表の記者会見など、又かと思つほど多かつたように思います。

企業が企業として存続するには、一番大切なことは社会に受け入れられる企業であるかどうかではないでしょうか。

社会に：消費者に：受け入れられない企業であるという事は、社会に存続する価値がないと言つことになりませぬ。

多くの従業員の上立つ経営者は、その企業が社会に受け入れられる企業であるように導いていくことが大きな使命であるわけですね。決して、経営者の個人的な地位や名誉欲、資産形成の為に社長として、経営役員として推挙されたわけではありません。

社会に受け入れられる企業と云うことはその相手である消費者を裏切らないと云うことに他なりません。社会を欺き裏切つて利益を上げたとして、例えばそれで社員の給料を上げ、そして株主に高配当をしたとしても、欺きに対する社会からの制裁は半端なことでは終わらない社会になってきました。

会社をもっと大きく拡大したい、； 拡大するために資金が必要だ、； その為にはもっと利益を蓄えたい、； 利益を蓄えるには、社会に受け入れられるような会社となるようなポリシーのもとに社会に貢献する力を培って行くことによつてその道が開けるのではないのでしょうか。

●易経に学ぶ経営哲学 「井は邑を改めて井を改めず」

易経の竹村亜希子先生に教えていただいたことですが、「水風井」(すいふうせい)は経営の危機管理の基本が書かれています。

それは、「井(せい)は邑(ゆう)を改めて井を改めず」と云う言葉であつて、井は井戸のことです。邑(ゆう)は村のことです。元来、人は水がなければ生きていけません。人は井戸のある所に集まり、井戸を中心として人々が往来してやがて村や町になってゆく。そして井戸の



大きな枝から取り分けただいたきた「まゆ玉」の枝を花瓶に挿すと小さなアートのできあがり。ちなみに黄色い玉は金柑の実です。

水は尽きませぬ。井戸を村に移すことはできませんが、良い井戸があれば村はそれの良い井戸をつくるべく多くの人々にその良い水を与えることができるのです。それでは、良い井戸、良い水とはどんなことなのでしょう。

頑丈な石の内壁で築かれていて、いつも冷たく、清潔で、ゴミなどの不純物が混じつていないことと、水を汲むための釣瓶がしっかりとついていて、きちんと底まで届く長さになっているかどうかでも大切なことだといふのです。

社会に受け入れられる企業であるためには、「水風井」の記述の良い井戸であることと切り切つてしまつても良いのではないのでしょうか。

万一、井戸の中に毒が入つていたりしたら、瞬間に人々はその井戸を捨てて他の心配がない井戸の方に移り去つてしまふのは当然のことでしょう。

形あるものはそのまま放置しておけば朽ちてしまいます。つまり、正しく井戸の管理ができる人が経営者でなければなりません。井戸の内壁を絶えずチェックするのは誰でしょう。釣瓶の点検をするのもきれいな水が湧き出るようにしておくのは誰がするのでしょうか。

こうして、井戸に例えてみると会社とは：経営者とは：ということがよく見えてきます。すべての管理の総責任者が社長なのですから、あの無様な記者会見のようにならぬように、あんな記者会見の部下が社長にやつたことなど云々云々お金の目がくらんで、井戸の手入れを怠ることがないような経営者でありたいと改めて思うこのごろです。

●パチンコ浪費癖から抜けられずに借金が…?

浪費癖がひどく、パチンコ、競馬などの博打が好きで、自分では金銭の管理が出来ないという千葉市内に住む青年の任意後見人を引き受けています。

パチンコ浪費癖を改善させようと毎日、毎日、判で捺したように3千円ずつ振込続けている私と、手元にお金があれば有るだけ使ってしまう今までの生活態度を変えたくない彼とのバトルは、毎回会うたびに意見が噛み合わず、数時間を一緒に過ごして別れた後は、身体中の血液がドロドロになってしまったのではないかと感じるほどヘトヘトに疲れ切っていて、2、3時間は何もする気が無くなってしまふほどのマイナスの気を浴びた感覚が残っています。

正月休みがあったから、彼と毎月通っている千葉市のその病院へ行くのはおよそ40日ぶりになります。血液検査の結果が少しでも良くなって欲しいが彼の生活状況を推測すると余り期待できない。今年の正月は久々に娘が会いに来るので、父親として精一杯の歓迎をしてやりたいと思い、師走の始め頃から落ち着かず少々舞い上がり気味でした。

年末から娘がやってきました。せめて正月は「おせち料理」でも…と父親として精一杯の準備をして歓迎していました。娘さんを交えて私と三人で会話をしている中、病気をさせないような平常の父親ぶりを演じている彼の姿はやはりお父さん。

しかし、私を交えて話すときの取り繕うようなその場の空気は…「他人には早く帰って欲しい…」と云わんばかりで落ち着かず、彼の精神的な負担は最高潮であったに違いありません。

そんな正月を過ごした直後のことです。たぶん…中身の濃い正月生活の反動によって、少々のトラブルがあるだろうことを予め想定はしていました。

それは、娘が帰ってしまった空虚感と、これといってやることのない自宅療養生活の暇な時間の解消方法のひとつとして、彼が再びパチンコ屋へ通うようになることでした。

そんなこともあろうかと…特にパチンコ屋通いは予め釘を刺しておいたのですが、残念ながら、私の期待は見事に裏切られてしまいました。成人式を挟む…3日間の連休の前に、金、土、日、月の4日分の生活費の送金をしておいたのですが、送金した金曜日の午後には全額を引き出しパチンコ屋へ行き、健闘するも空しく…僅か1時間足らずで全額を浪費してしまったようです。

そんなわけですから、金曜日の夕方からは、ひっきりなしに電話がかかってくるようになりました。いつものことなのですが、手元にお金が無くなると、「そんなことあるわけないだろう…」と思うようなことも含めて驚くような理由を延々と並べ立て、何とかして送金させようと執拗なほどの勢いで電話攻撃をします。相手は時間が有り余っている人ですから何度でも電話を掛けていられるのですが、こちらは仕事でであったりすると、ほとんど参ってしまうこともあります。そんなことで挫けていたのでは彼の思うつばに填ってしまいます。

哀れそうな声を作りながら…少しでもお金を送ってくれという彼に対し、「約束した以外のお金は送れないけど、食べる物なら宅配便で送ってあげるから…」と云うと、「食べ物はず賞味期限があるからいらぬ…」と云って、食料を送ることを断ってきた。彼の説明では、「いま手元には2千円少々しか残っていないの

リスク・カウンセラー奮闘記・44

で…」と云うので、2千円あれば3日間を過ごすことは出来るだろうとあえて心を鬼にして「3日間をそれで乗り切りなさい…」と、冷たく返事をしておきました。

彼の場合は、「いまは手元にお金がない…。お金がないからパチンコはよそう…」とは、残念ながらもならない。

行きつけのスナックのママから6万円を借りてしまったようだ。

私が任意後見人になる前にも、数十万、数百万円の借金をつくってしまい、会社や自宅に怖い街金融のお兄さんが頻りに顔を出すようになったことがあって、結局親が全額を支払って解決したという話を聞いていますので、どんなことがあっても新たな借金だけはさせてはなりません。

ですから、頻りに小さくお金を管理しながら送金してあげて、その用途を確認しながらお金の大切さを話し合うようにしています

●小さな約束…せめて小銭は郵便貯金に…?

昨年8月頃から「せめて娘へ贈るプレゼントぐらいは自分が貯めたお金で買ってあげられるようにしよう…」という提案を受け入れてくれて、1回に千円にも満たない小銭ですが、私が彼の家に訪ねるたびに一緒に郵便局へ行ってATMで入金するようにし、何とか少しずつでも貯金をするという習慣が身につく、お金が貯まっていくことの喜びを感じて欲しいと期待していました。あともう少しで1万円の大台になる金額まで貯まってきた通帳を見る彼の表情も満足そうなので、小さな成果を見つけられた気がして、彼も少しずつでも続けていくことを約束してくれました。

新年でもあるので、彼に「病院に行く前に、今年の貯金初めをしに行こう…」と貯金通帳を持ってくるように声をかけると、突然声を荒げて「何でそこまで管理されなくちゃいけないんだ…」と大声で叫び私を睨みつけるようにそれを拒否するのです。

「なぜ…?…通帳を見せられない何かがあるんだ…」と彼が弁明するまでもなくすぐにその反抗の理由が分かりました。彼の説明によると、「去年の暮れに娘が帰ったあとどうやって時間を潰したらいいかわからなくて…(パチンコ屋で使ってしまった…)」それと「11月に(パチンコ屋へ)行った時は9万円も取ったんだ…」と、得意げにつけ足して弁解を云う。

時間がつぶせて稼げるんだからこんなに都合の良いことはないだろう…と云わんばかりで、いつものことながら、ほとんど呆れてしまいましたが「まとまったお金が手元にあるとパチンコ屋に行くためのお金になっちゃうから…これからは毎日3千円ずつ送金する方法は変えないから…」と、いっこうに改まらない浪費癖を鎮めるような良い妙案はないものかと悩む私です。

また小さな約束をしてきました。小銭の貯金を再開すること。どうしてもパチンコ屋へ行きたい衝動に駆られたら、すぐに私の持つ彼専用のPHS携帯電話に連絡してくること。

でも、何処にいても…どんな時でも…頭の中から彼のことが消えないという、時に…恐怖感のようなものを感じることもさへあります。リスクカウンセラーとして、今のこの対応に悩む今日この頃です。



初春に似合う福寿草。堅い凍土を破って小さな花を咲かせる逞しさはいとおしさを感じさせます。蕾がなかなか開かなかつたカラライオン・ジャスミンが、ようやく咲き始め豊かな香りを放ちはじめました。



◆=◆=リスクカウンセラー・四方八方巷談=◆=◆
googleで"リスクカウンセラー"と検索してください。
<http://risk-counselor.seesaa.net/>

QRコードから読み込んでください。
携帯電話から「ブログ」を読めるようになります。



◇ 発行者 株式会社ホロニクス総研 〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-12 かんだビル7階
◇ 責任者 代表取締役・リスクカウンセラー 細野 孟 士 (t-hosono@holonics.gr.jp)
◇ 連絡先 Phone (03) 5684-0021 Fax. (03) 5684-0031 <http://www.holonics.gr.jp>

【ホロニック】(英: Holonic) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。すなわち組織と個人が有機的に結びつき全体も個人も生かすような形態を言う。生物は個々の組織が自主的に活動すると同時に独自の機能を発揮する一方でそうした個が調和して全体を構成する(小学館「カタカナ語の事典」より)